

## 10年度研修員一覧

学部	人数枠	資格	氏名	期間	主たる研究先	研究目的
法	前期1名後期1名の2名以内		被選考者なし			
文	前期2名後期1名または、前期1名後期2名の3名以内	教授	中島 巖	10.4.1～ 10.9.30	大阪大学人間科学部基礎人間科学講座、三島憲一教授研究室	これまでに得た資料や実験データを整理分析し、論文に纏める作業を行う傍ら、三島憲一教授の許で実用ドイツ語の向上に励みたい。
		教授	上村 哲彦	10.10.1～ 11.3.31	ジェノバ大学	John Ruskinの芸術論、G. Gissingの文学的立場と大陸の関係。D. H. Lawrenceの感性とヨーロッパ古代の文明との邂逅の意味等が、英文学の流れの中でどのような立場を占めているか。
					チューリッヒ大学	
					オックスフォード大学	
イーストアングリア大学ボードリアン図書館						
教授	田中 欣和	10.10.1～ 11.3.31	自宅	<p>演習その他において、反差別人権教育を主なテーマとしてきたが、今日的な状況では、長年担当している教職科目「部落解放教育の研究」も、反差別人権教育論として組みかえる必要があると考える。</p> <p>部落問題・性差別問題に関わり、自治体等の委託調査等もしばしば行い、問題の所在と再構築の方向等はかなり掴めてきた。これらを纏め直し、次の段階の本学人権教育の構想・展開に寄与したい。</p>		
経	前期1名後期1名の2名以内	教授	市川 浩平	10.4.1～ 10.9.30	研究室、関西大学図書館	現在、関心を持っているテーマは、川上発想から川下発想への転換及び生産・流通・消費の三位一体的認識です。このテーマのもとに書物を出版したいと考えています。
		教授	竹下 公視	10.10.1～ 11.3.31	研究室	これまでの、経済システム（体制）論の研究は大きく3つに区分できる。第1は、ユーゴスラビア自主管理経済の理論的・実証的研究、第2は、所有制度に関する理論的・規範的研究、第3は、経済システムを制度の視点から捉える制度の経済学的研究である。これらはいずれも経済システムを全体的に把握するための枠組みを構築する意図の下に行われてきたものであるが、現在ようやく、そうした意味での分析枠組みを明確にできた。今後の研究方向を確固たるものにするために、研究を継続し、1冊の書物にまとめることに専念したいと考える。

商	前期1名後期1名の2名以内	教授	井上 昭一	10.4.1～ 10.9.30	自宅、研究室	従来よりアメリカ経営史、アメリカ自動車工業企業史、とりわけGeneral Motors Corporationの研究に重点的に取り組み、その成果を論文や著書として発表してきたが、近年にいたって各国の自動車メーカーを中心とする企業のglobalizationが、拡大・深化していて、国際的に種々問題を惹起している。その点に関して、史的、理論的にフォローしたい。
		教授	松尾 聿正	10.10.1～ 11.3.31	自宅	1. 会計基準国際化に向けた対応動向に関する調査研究の充実を図る。
					個人研究室	2. 環境情報開示に関する研究を纏める。
関西大学図書館	3. 平成8年以降のわが国会計制度の改正に関する資料を収集・整理し、教科書『財務諸表の理論と演習』の改訂作業を行う。					
社	前期1名後期1名の2名以内	教授	木村 洋二	10.4.1～ 10.9.30	自宅、滋賀県立大学	記号・表象・荷重の三項からなるsemionの理論を整備・完成させたい。さらにsemionのネットワークとしてsemios（意味世界）の構成とダイナミクスを明らかにしたい。
					オーストラリア、アメリカ	socion理論のフレーム・ワークを整備し、応用の可能性を探る。Socios（社会集合体）とsemiosの接合について考えたい。
		教授	植條 則夫	10.10.1～ 11.3.31	日本広告研究所、日本民間放送連盟、日本広告制作者協会	1. 広告表現における創造哲学の変遷と現状。
日本広報協会、電通総研等	2. 日・米・ヨーロッパの広告クリエイティブの比較研究。					
その他広告・映像関係の研究機関・団体	3. 近未来における広告クリエイティブの発想と表現。					
						以上の3点を中心に、わが国広告クリエイティブの動向と現状を調査研究する。
総情	前期1名後期1名の2名以内		被選考者なし			
工	前期2名後期1名または、前期1名後期2名の3名以内	助手	松本 亮介	10.4.1～ 10.9.30	京都大学大学院工学研究科機械工学専攻鈴木健二郎伝熱工学研究室	ガスタービンの高性能冷却法に関する研究について、以下の点で研究を進める予定である。一点目はガスタービン冷却法の1つであるピンフィン冷却について、ピンフィンの形状が冷却能力に及ぼす影響について調べる。二点目は、ピンフィンまわりの流動を数値解析により推測し、すでに実験により得ている情報と比較、検討し、ピンフィンまわりの伝熱現象についてモデル化を行うことである。

(注) 研究者の氏名及び資格は、いずれも平成10年4月1日現在のものです。